

水源の森再生プロジェクト #4,5

～落葉広葉樹の植樹と、皮むき間伐～



第4回 2022年4月 2日(土)～ 5(日)開催 参加者48名
 第5回 2022年5月20日(金)～22(日)開催 参加者61名

◆プロジェクトの目的と概要◆

～自然と共生する昔の知恵に学び、山を育て、自分を育てる～

2021年6月から始まった本プロジェクトでは、かつての「山と向き合う土木造作」をもう一度甦らせ、針葉樹人工林を落葉広葉樹の入り混じる水源涵養力の豊かな森に戻していきます。同じ現場での活動を継続することで、その変化を体感しながら学びます。「山に向き合う姿勢・視点」を養い自然を読み解く観察力を身につけることを目標にし、日本各地で環境再生を指導できる人材を養成していきます。

◆落葉広葉樹の植樹◆

▼森を育てて、木をいただく

これまでの作業では、山の斜面に水が浸透する土中環境を整えてきました。開始から1年が経ち、この春芽吹いたコナラやモミジの実生があちこちで見られ、早くも地面の環境は大きく変化してきています。木の実がしっかりと根付くような環境になってきている証拠です。

4月の講座では、苗木を植える場所「マウンド」づくりをおこないました。5月の講座では、100か所程のマウンドに、広葉樹18種類765本を植樹しました。コナラやモミジ、トチなど小菅村に自生していて環境に適した樹種を選んでいきます。樹高が20mを超えるこれらの樹種を植えることで、10年後、20年後には水源涵養力のある針葉樹と広葉樹の混交林が育ちます。

作業には小菅村の子供たちや、村議会議員のみなさんにもご参加いただきました。初めての木を植える作業も楽しんでくれたようでした。みんなで植えた木の成長を、ともに見守っていきたいと思います。



◆皮むき間伐◆

▼太陽光の差す明るい森に

均一に植えられた針葉樹を、1か所あたり数本ずつ間引き、山林にパッチ状に太陽光が差す箇所を作っています。「皮むき間伐」では、針葉樹の樹皮をおき、成長を止めることで、1年近くかけて少しずつ立ち枯れさせます。幹の内部が乾き、軽くなったところで伐倒することで、伐倒の際の地面への負荷を小さくすることができ、また搬出もしやすくなります。

木を間引いたことでできたすき間には、次世代の広葉樹が育っていき、多種多世代の樹木が入り混じる豊かな森へと変化していきます。



今年の春、芽吹いたコナラの実生。自然に根付いた苗木はより強く、育っていきます。



植樹をしたあとの森の様子。様々な樹種が入り混じるように植えました。



講師 / 『土中環境』著者
 NPO法人地球守 代表理事
高田 宏臣氏



50本以上のスギ・ヒノキを皮むきました。さらに林床が明るくなっていきます。



小菅村議会議員の皆さんにも植樹にご参加いただきました。

◆もっと詳しく知りたい方へ◆

本講座で学ぶ技術・視点は、高田宏臣氏著『土中環境』や、NPO法人地球守発行「地球守の自然読本」にて紹介されています。☆お問い合わせ☆

多摩川源流大学 ☎ 0428-87-7055 ✉ info@npokosuge.jp

- 主催 多摩川源流大学 (NPO法人多摩源流こすげ)
 - 技術協力 NPO法人地球守・株式会社高田造園設計事務所
 - 後援 小菅村役場
 - 苗木寄贈 社会福祉法人進和学園 いのちの森づくり友の会
- ※本講座は、地球守活動基金の支援を受けて開催しております。